

## 横浜市区別標準化死亡比(SMR)

地域別に、死亡数を人口で除した通常の死亡率(粗死亡率)を比較すると、地域の年齢構成に差があるため、高齢者の多い地域では死亡率が高くなり、若年者の多い地域では低くなる傾向があります。このような年齢構成の異なる地域間で、死亡状況の比較ができるように考えられた指標として、標準化死亡比(Standardized mortality ratio : SMR)があります。標準化死亡比は、基準集団の年齢階級別死亡率とその地域の人口から算出する期待死亡数と、その地域で実際に観察された死亡数の比を用いることで、その地域の死亡状況がどの程度かを推測する指標です。標準化死亡比を用いることで、年齢構成の異なる集団について、年齢構成の違いを気にすることなく、より正確に地域比較ができます。

衛生研究所では、代表的な疾患について全国と比較した区ごとの標準化死亡比を算出し、ホームページ(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/katsuyo/data.html>)に掲載しており、今回、昨年度公表された平成22年の人口動態から得られた数値を元にデータを更新しましたのでご紹介します。なお、表の中の数字は、それぞれの疾患における全国の死亡率を1.00としたときの比で、1.00よりも大きいときは全国よりも標準化された死亡率が高いことを意味します。

表1 横浜市区別標準化死亡比(男性・抜粋)

区名	全死因	結核	悪性 新生物	心疾患	脳血管 疾患	肝疾患	自殺
横浜市	0.96	<b>1.29</b>	1.01	0.93	0.91	<b>1.41</b>	0.82
鶴見	<b>1.11</b>	1.28	<b>1.13</b>	1.05	<b>1.19</b>	<b>1.86</b>	0.80
神奈川	1.02	1.34	<b>1.07</b>	0.94	0.98	<b>1.63</b>	0.83
西	<b>1.09</b>	1.20	<b>1.10</b>	1.11	1.03	<b>1.99</b>	0.81
中	<b>1.34</b>	<b>3.50</b>	<b>1.17</b>	<b>1.27</b>	<b>1.44</b>	<b>5.13</b>	<b>1.49</b>
南	<b>1.15</b>	1.35	<b>1.18</b>	<b>1.11</b>	<b>1.14</b>	<b>2.18</b>	1.10
港南	0.89	1.24	0.95	0.91	0.79	1.05	0.76
保土ヶ谷	0.95	<b>1.97</b>	1.03	0.89	0.89	1.05	0.78
旭	0.92	1.00	0.97	0.89	0.84	<b>1.35</b>	0.81
磯子	0.97	0.92	1.03	0.97	0.96	<b>1.50</b>	0.81
金沢	0.87	1.03	0.94	0.85	0.87	0.95	0.74
港北	0.91	1.16	1.00	0.85	0.81	1.04	0.84
緑	0.92	1.06	0.98	0.88	0.89	1.22	0.74
青葉	0.77	1.10	0.88	0.78	0.70	0.61	0.70
都筑	0.80	1.61	0.87	0.83	0.69	0.70	0.65
戸塚	0.89	0.98	0.96	0.87	0.82	1.00	0.74
栄	0.84	1.32	0.92	0.78	0.79	0.83	0.74
泉	0.90	0.79	0.93	0.88	0.82	1.01	0.74
瀬谷	0.99	0.83	1.01	0.96	0.86	1.21	0.81

SMR算出法：ベイズ推計法

観察期間：平成18～22年

全国の性・年齢別・死因別の死亡数：18～22年の平均値を使用

横浜市および当該区の男女別・死因別死亡数：18～22年の平均値を使用

全国の性・年齢別人口：H22国勢調査人口、推計人口(各年10月1日現在)を使用

横浜市および当該区の性・年齢別人口：H22国勢調査人口、推計人口(各年1月1日現在)を使用

※全国と比べて、統計学的に有意(p<0.05)に標準化死亡比が高い値を**太字斜体下線引き**としました。

表2 横浜市区別標準化死亡比(女性・抜粋)

区名	全死因	結核	悪性 新生物	心疾患	脳血管 疾患	肝疾患	自殺
横浜市	0.99	1.17	<b>1.04</b>	0.94	0.95	<b>1.12</b>	0.97
鶴見	<b>1.13</b>	1.14	<b>1.13</b>	1.05	<b>1.21</b>	<b>1.36</b>	0.99
神奈川	1.01	1.60	1.03	1.00	1.03	1.20	0.92
西	<b>1.07</b>	1.30	1.03	0.98	1.01	1.23	0.99
中	<b>1.10</b>	2.00	<b>1.20</b>	1.01	1.04	1.23	1.09
南	<b>1.14</b>	1.51	<b>1.17</b>	<b>1.11</b>	<b>1.13</b>	<b>1.51</b>	1.04
港南	0.97	0.51	1.01	0.91	0.90	1.28	0.93
保土ヶ谷	1.02	0.77	<b>1.08</b>	0.95	0.94	1.17	0.99
旭	0.97	0.50	1.04	0.88	0.92	0.90	0.96
磯子	1.02	1.61	<b>1.09</b>	0.93	1.01	1.01	1.00
金沢	0.96	1.46	1.01	0.97	0.86	0.99	1.02
港北	0.97	1.30	<b>1.05</b>	0.89	0.91	1.02	0.97
緑	0.85	0.88	0.94	0.82	0.79	0.96	0.77
青葉	0.82	1.35	0.92	0.79	0.77	0.90	0.97
都筑	0.88	1.20	0.96	0.88	0.84	0.97	0.96
戸塚	0.96	1.03	1.00	0.97	0.91	1.15	0.84
栄	0.96	1.26	1.00	0.81	0.87	1.05	1.06
泉	0.96	1.03	1.00	0.92	0.96	1.10	0.92
瀬谷	<b>1.05</b>	0.95	1.07	1.03	0.90	1.07	1.10

SMR算出法：ベイズ推計法

観察期間：平成18～22年

全国の性・年齢別・死因別の死亡数：18～22年の平均値を使用

横浜市および当該区の男女別・死因別死亡数：18～22年の平均値を使用

全国の性・年齢別人口：H22国勢調査人口、推計人口(各年10月1日現在)を使用

横浜市および当該区の性・年齢別人口：H22国勢調査人口、推計人口(各年1月1日現在)を使用

※全国と比べて、統計学的に有意(p<0.05)に標準化死亡比が高い値を**太字斜体下線引き**としました。

横浜市全体では、男性では結核、肝疾患、女性では悪性新生物、肝疾患の死亡比が全国より有意に高くなっていました。区別でみると、特に中区の男性では多くの疾患で全国よりも高い死亡比を示しており、中でも肝疾患は全国の5倍以上、結核も全国の約3.5倍高くなっていました。

各区における健康施策立案にはこれらのデータが非常に参考になると考えられますが、さらにより具体的な施策立案に際しては、各疾患の要因や発生地域、区民の生活習慣などの詳細な分析が必要です。

なお、下記ホームページ「保健統計データ集」の「標準化死亡比」のページには、今回掲載できなかった他の疾患や、年ごとの標準化死亡比も掲載していますのでご参照ください。

◆衛生研究所保健統計データ集:

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/katsuyo/data.html>

【 感染症・疫学情報課 】